

自治会運営に関するアンケート調査 報告書

令和元年11月

稲城市自治会連合会

（事務局：稲城市総務部総務契約課）

〇はじめに

このたびは、稲城市自治会連合会実施のアンケート調査にご協力を賜り、誠にありがとうございました。連合会加入の団体のみならず、未加入の団体からも多くのご回答をいただきました。

以下に回答をとりまとめましたので、ご高覧いただき、自治会運営の参考としていただければ幸いです。

なお、回答のとりまとめにあたりまして、類似意見や選択項目に含有されるものについては、それぞれ内容集約の上、記載させていただいております。また、設問によっては、未回答あるいは複数回答の団体もあることから、必ずしも、実際の回答団体数と集計上の団体数が一致していない部分もあります点、ご了承ください。

末筆ながら、自治会活動を通じた地域コミュニティのより一層の充実を祈念しつつ、このたびの御礼とご挨拶とさせていただきます。

稲城市自治会連合会 役員一同
(事務局:稲城市総務部総務契約課)

1、調査概要及び回答状況 ※令和元年10月末日時点

【実施期間】

令和元年7月～9月

【実施対象】

市内37自治会

(うち、自治会連合会加入26団体、未加入11団体)

【回答状況】

[自治会連合会加入]

回答あり 25 団体

回答なし 1 団体

回答率 96.2 %

[自治会連合会未加入]

回答あり 9 団体

回答なし 2 団体

回答率 81.9 %



[合計]

回答あり 34 団体

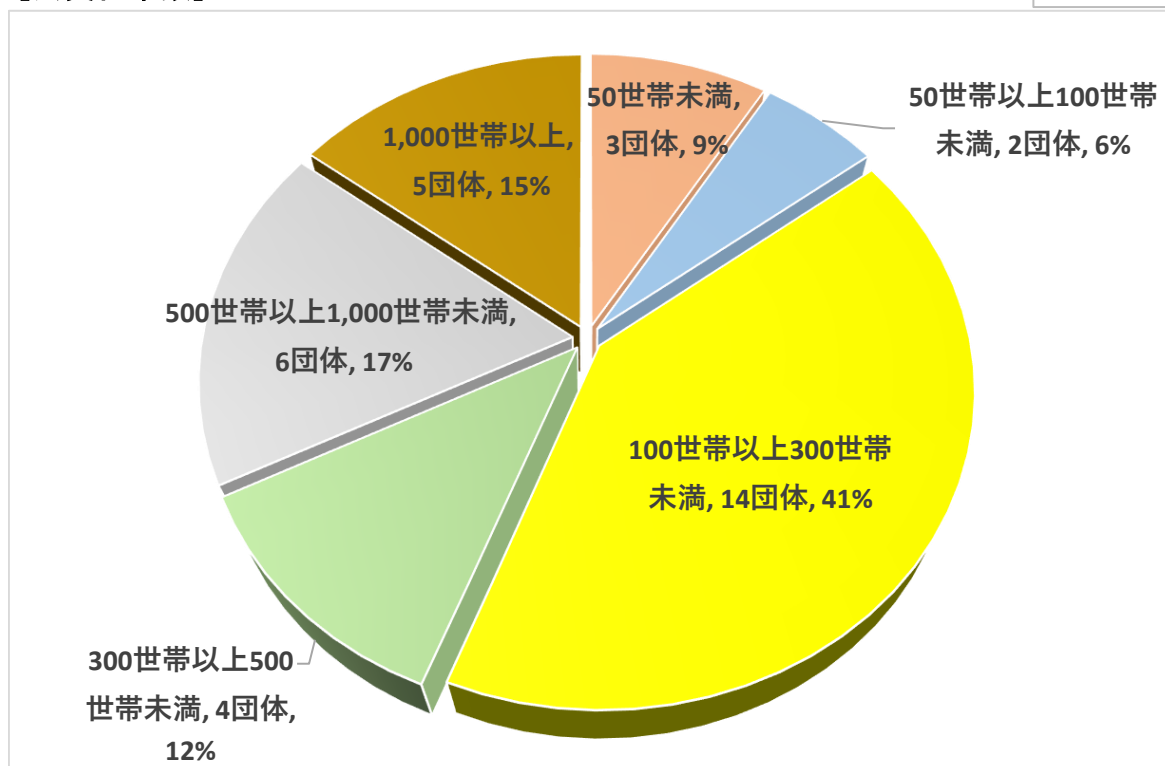
回答なし 3 団体

回答率 91.9 %

【回答のあった団体の構成状況】

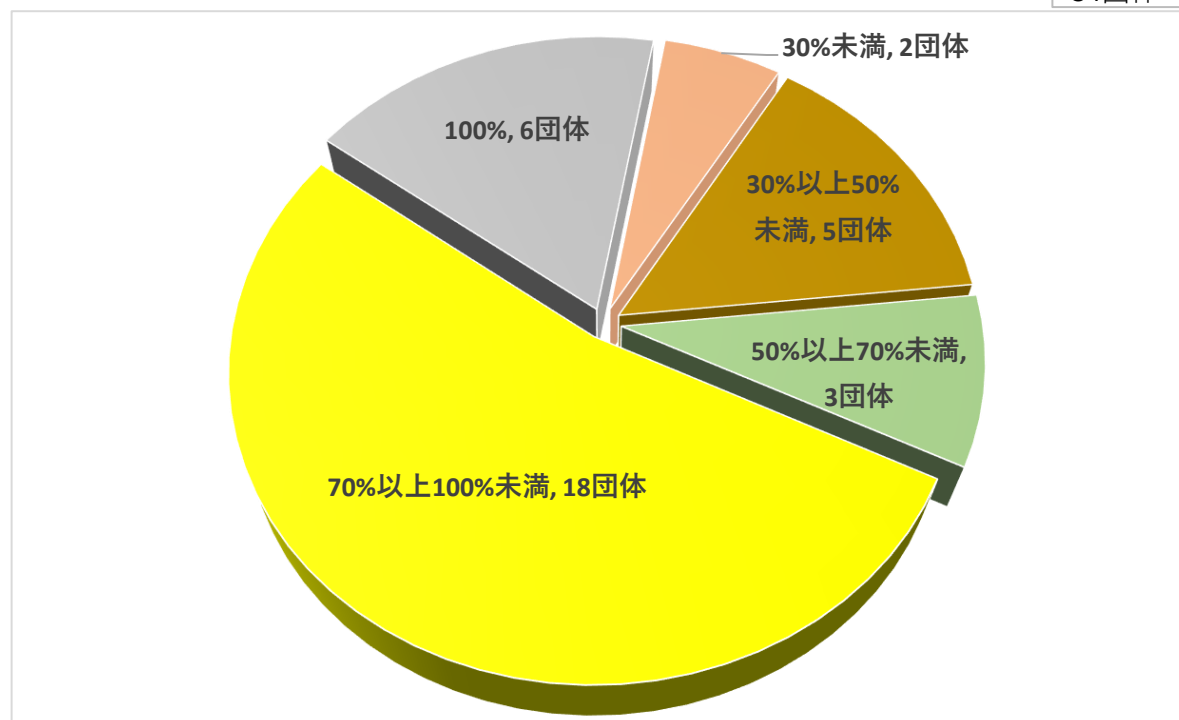
【会員世帯数】

34団体



【加入率】

34団体



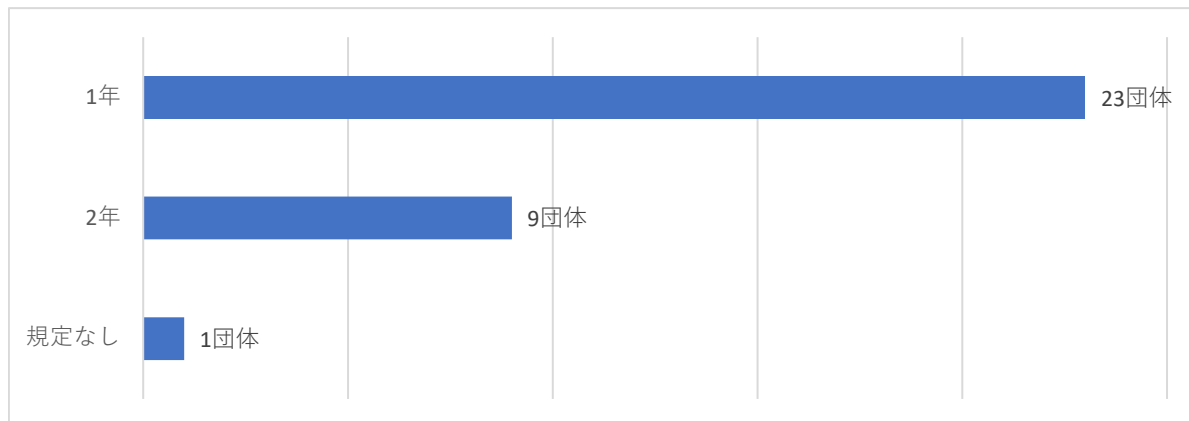
2、調査結果

<自治会長に関する質問>

問1-1 会長任期(1期の年数)

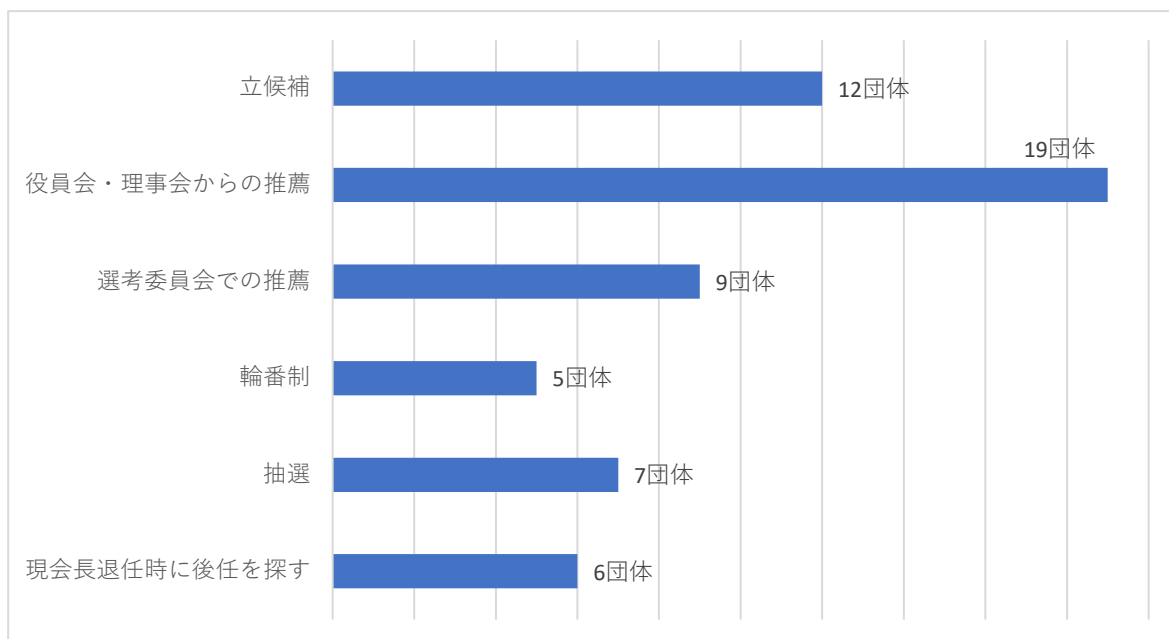
会長任期は「1年」が23団体と多く、次いで「2年」が9団体であった。

また、任期を規定していないところが1団体あった。



問1-2 会長選出方法 ※複数回答あり

「役員会・理事会からの推薦」(19団体)が最も多かったが、立候補や輪番・抽選等で候補者を決めつつ、役員会等で協議するなど、複数の方法を組み合わせて選出する回答が目立った。

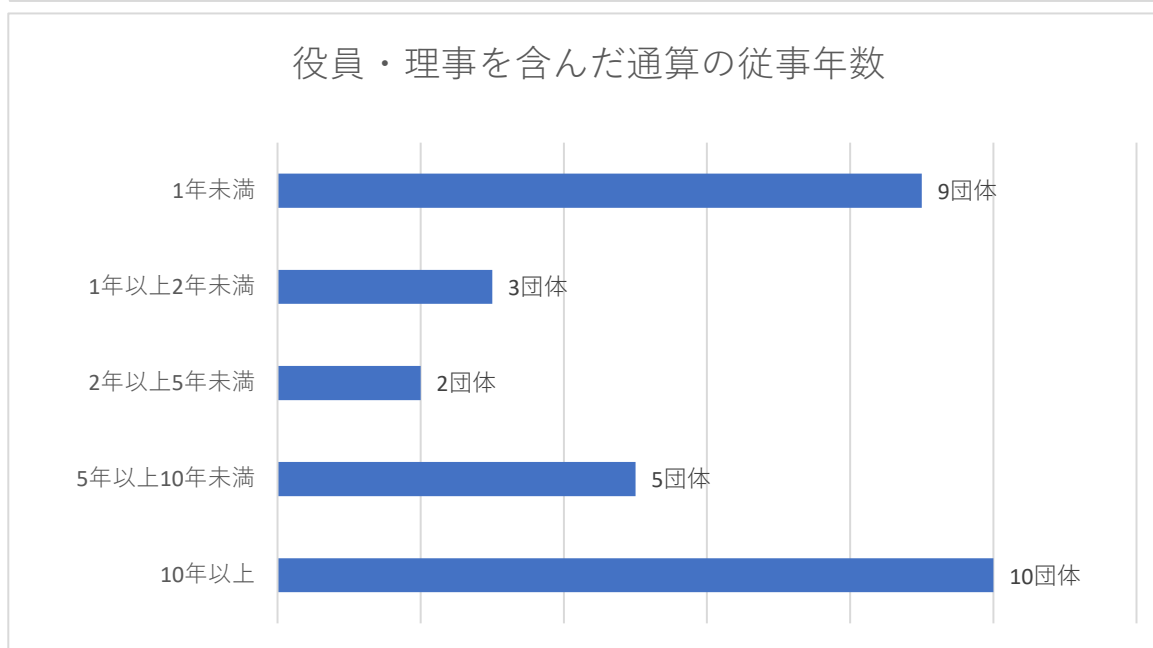
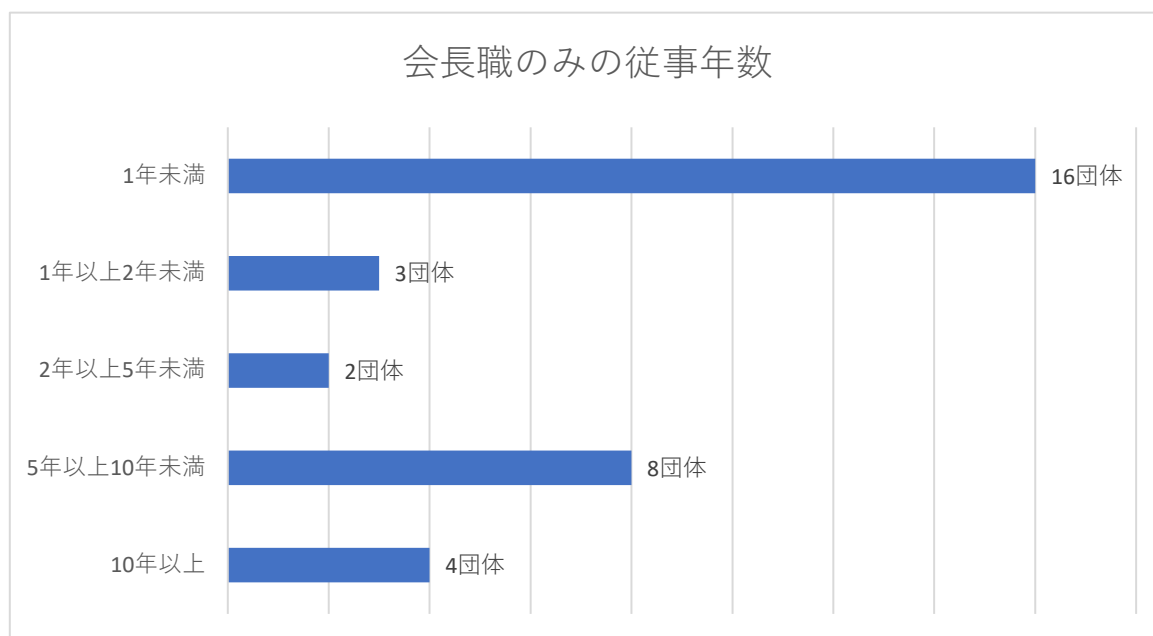


問1-3 現会長従事年数

会長職のみの従事年数では、「1年未満」(16団体)が最も多く、次いで、「5年以上10年未満」(8団体)が多かった。

役員・理事を含んだ通算の従事年数では、「10年以上」が10団体、「1年未満」が9団体あり、同程度であった。

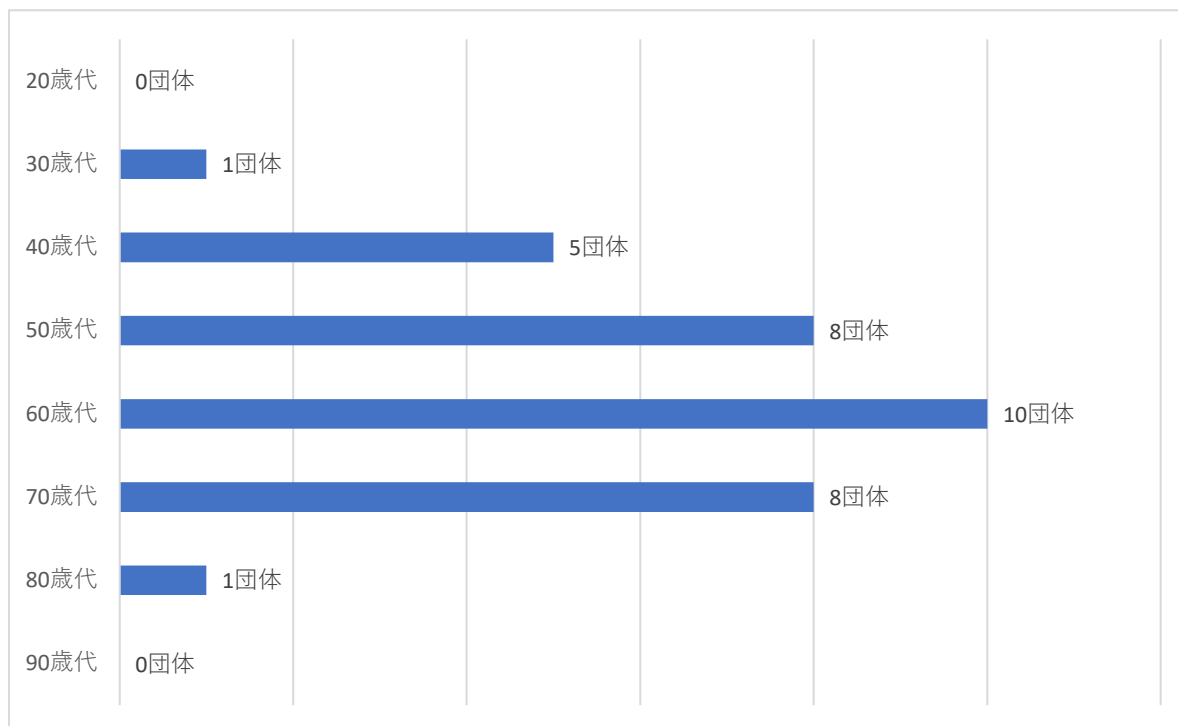
輪番や抽選により会長等を選出している団体では、1年程度の短期での交代が目立つ一方、それ以外の選出方法による団体では、5年以上の長期にわたり活躍される方も多く、全体として二極化の様相となった。



問1-4 現会長年齢

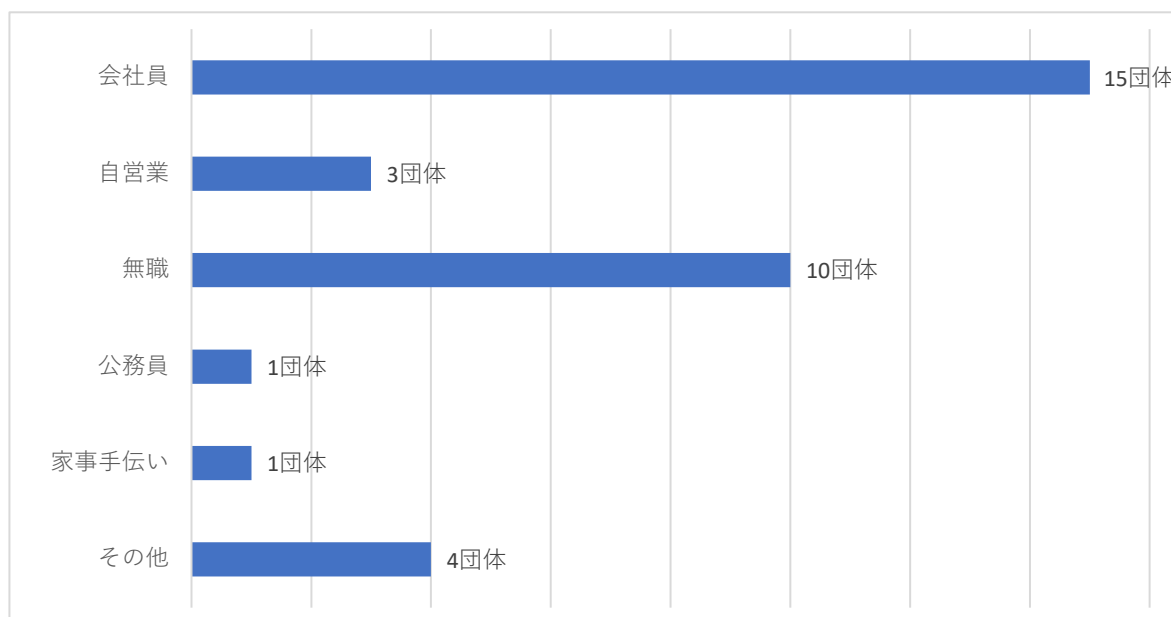
現在会長を務めている方の年齢は、「60歳代」(10団体)が最も多く、次いで、「50歳代」「70歳代」が共に8団体であった。

最年少は「30歳代」、最高齢は「80歳代」であり、共に1団体であった。



問1-5 現会長職業

会長職を務めている方の半数以上が、現役で就労されている状況であった。

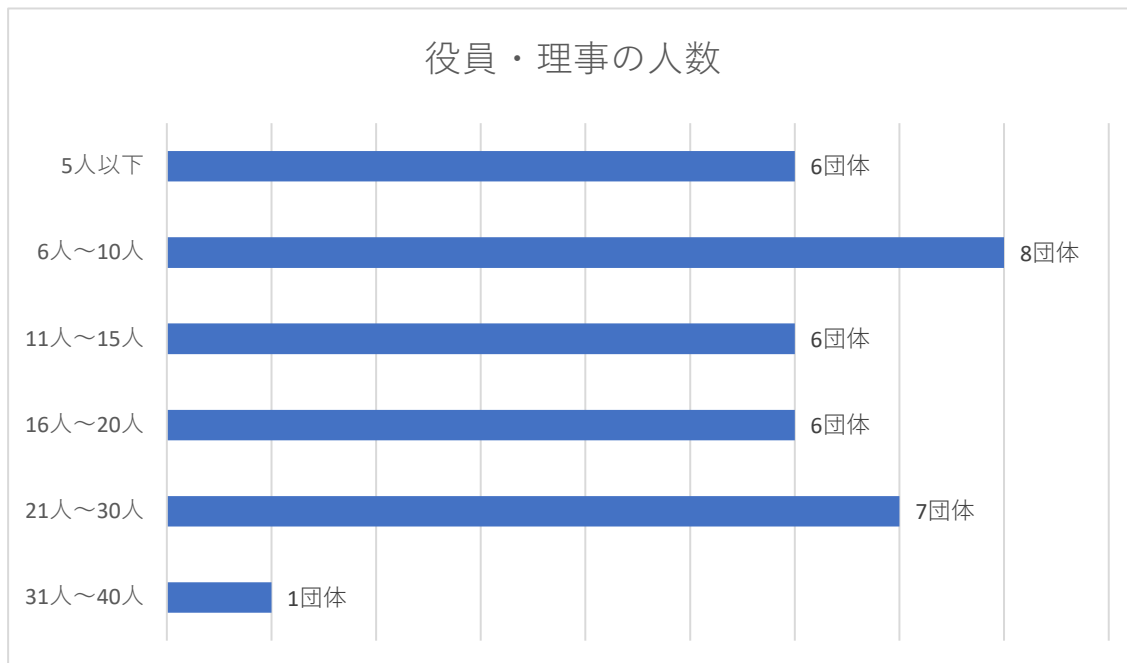


<自治会役員・理事に関する質問>

問2-1 自治会役員・理事の人数

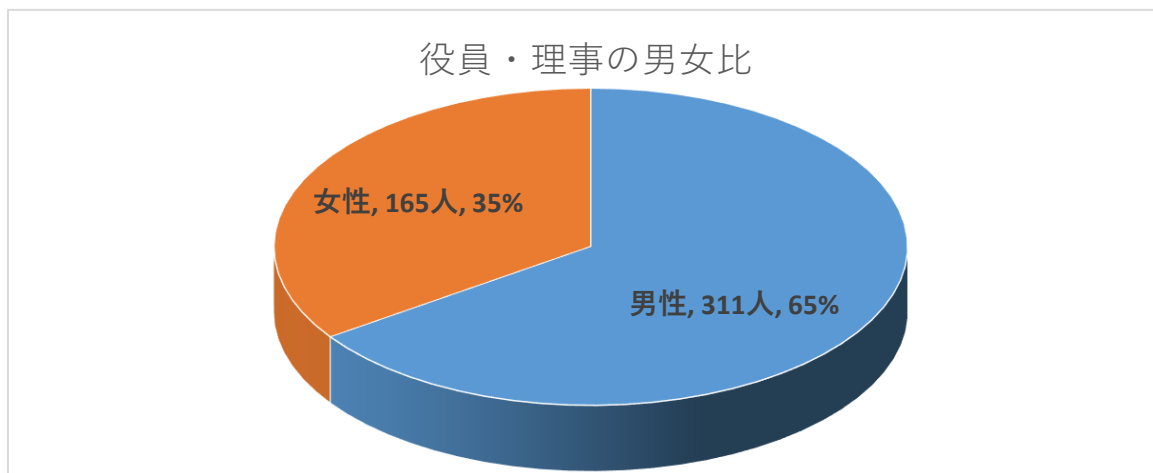
役員・理事の人数は、「6人～10人」(8団体)が最も多かったが、「5人以下」(6団体)、「11人～15人」(6団体)、「16人～20人」(6団体)、「21人～30人」(7団体)とほぼ均等に分布していた。それ以外では、「31人～40人」が1団体あった。

なお、役員・理事の人数が会員数に占める割合は、会員数の1割未満の自治会が26団体、2割未満が7団体、3割未満が1団体であった。



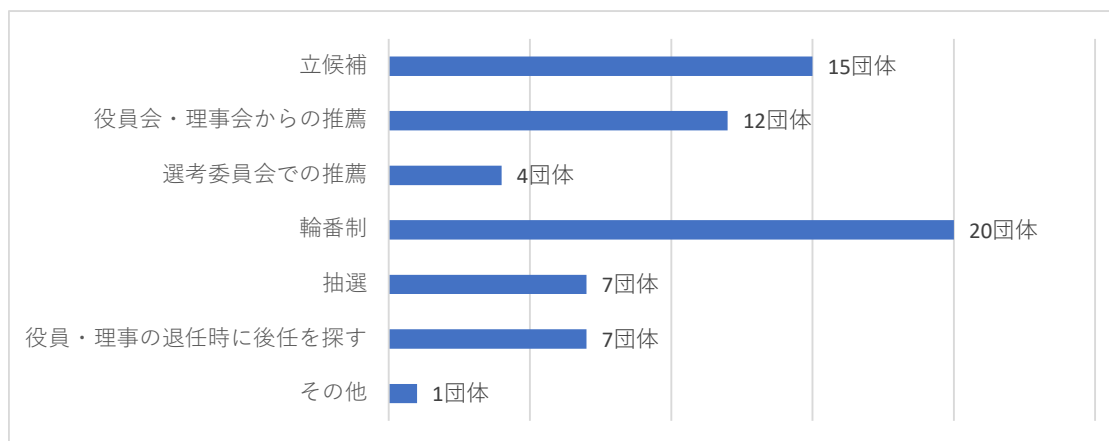
役員・理事の男女比を見てみると、全体で、男性が311人(65%)、女性が165人(35%)であった。

なお、各自治会において、女性の役員・理事が占める割合は、1割未満が5団体、3割未満が15団体、5割未満が8団体、5割以上が6団体であった。



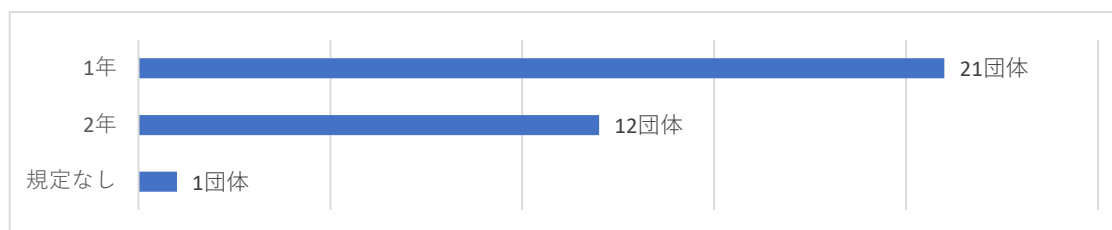
問2-2 役員・理事の選出方法 ※複数回答あり

「輪番制」(20団体)が最も多かったが、問1-2の会長の選出方法と同様に、複数の選出方法を組み合わせて運用している回答が目立った。「その他」は、会長による任命であった。



問2-3 役員・理事の任期

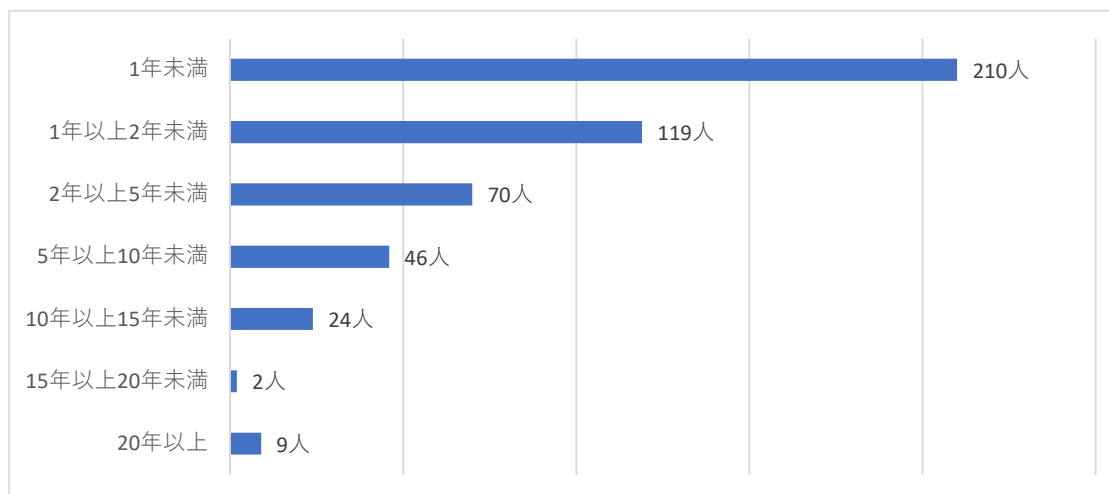
「1年」が21団体と多く、次いで、「2年」が12団体であった。また、任期を規定していないところも1団体あった。



問2-4 各役員・理事の従事年数区分による人数

「1年未満」(210人)、「1年以上2年未満」(119人)が全体の約7割を占めていた。

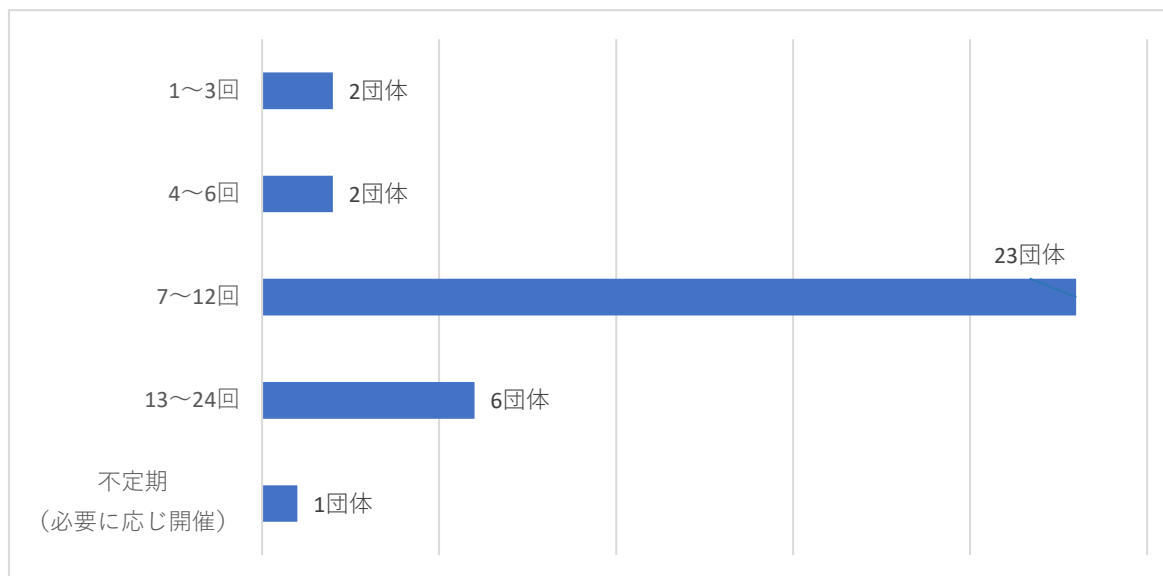
「20年以上」の方も居るものの(9人)、全体として、従事年数が長くなるにつれ、人数は減少傾向にあった。



問2-5 役員・理事会の年間開催回数

「7回～12回」(23団体)が最も多く、次いで、「13回～24回」(6団体)が多かった。

定期開催はせず、必要に応じて開催とするところも1団体あった。

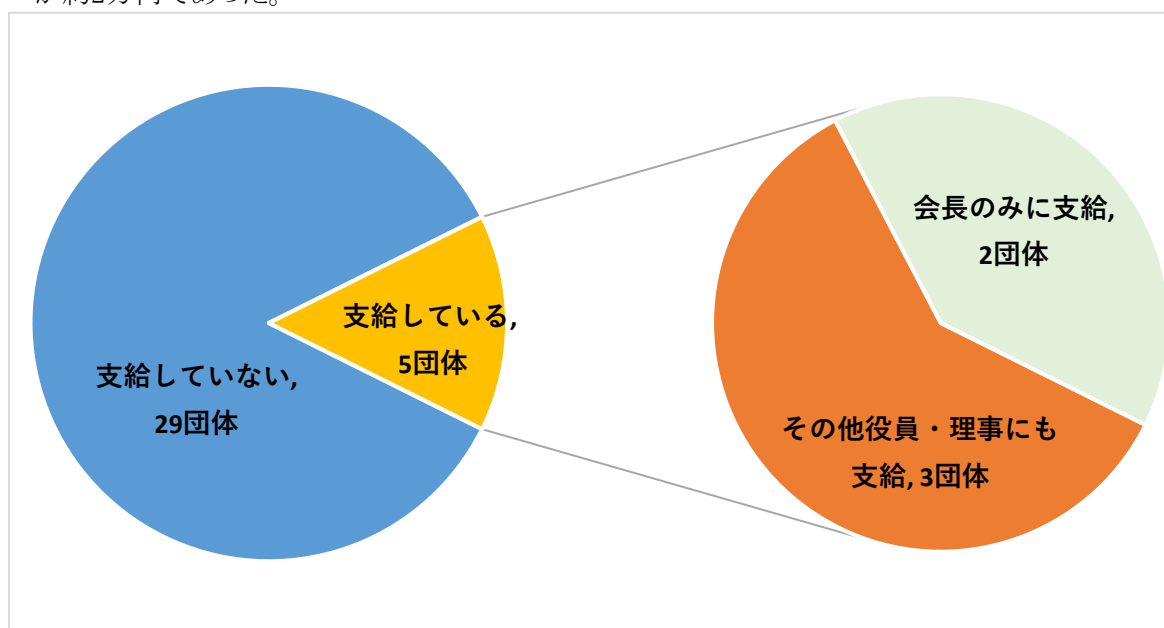


問2-6 役員・理事への手当支給の有無

支給していない団体(29団体)が多く、全体の85%を占めていた。

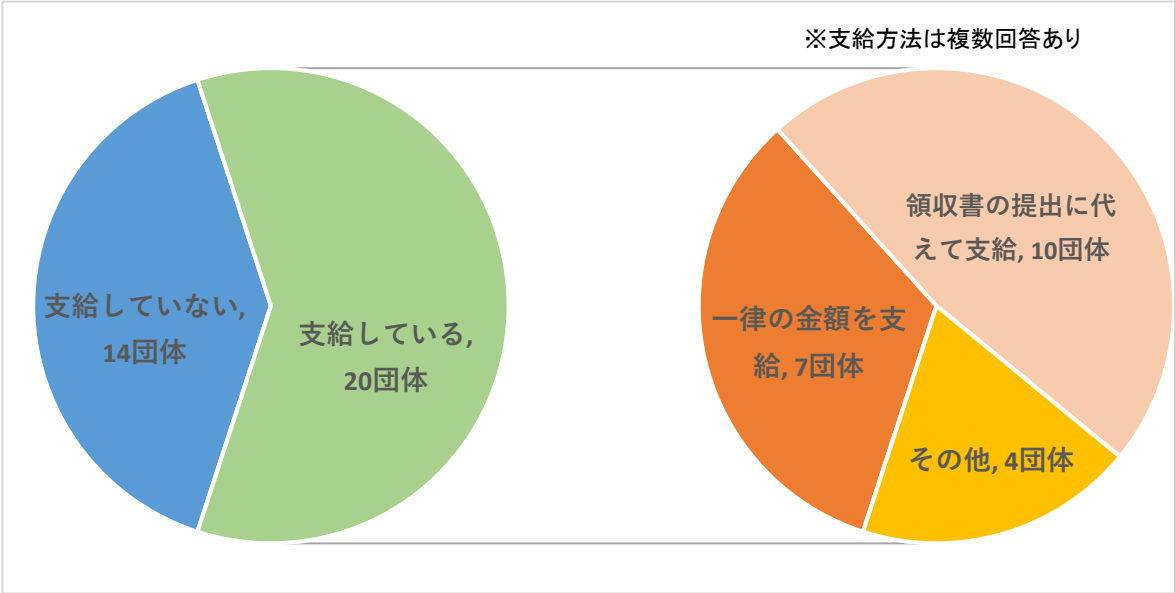
支給している5団体のうち、会長のみに支給しているのは2団体、その他の役員・理事に対しても支給しているところは3団体であった。

なお、支給団体における支給額の平均値は、会長職が約5万円、その他役員・理事が約2万円であった。



問 2-7 役員・理事への費用弁償（旅費・電話代等）支給の有無

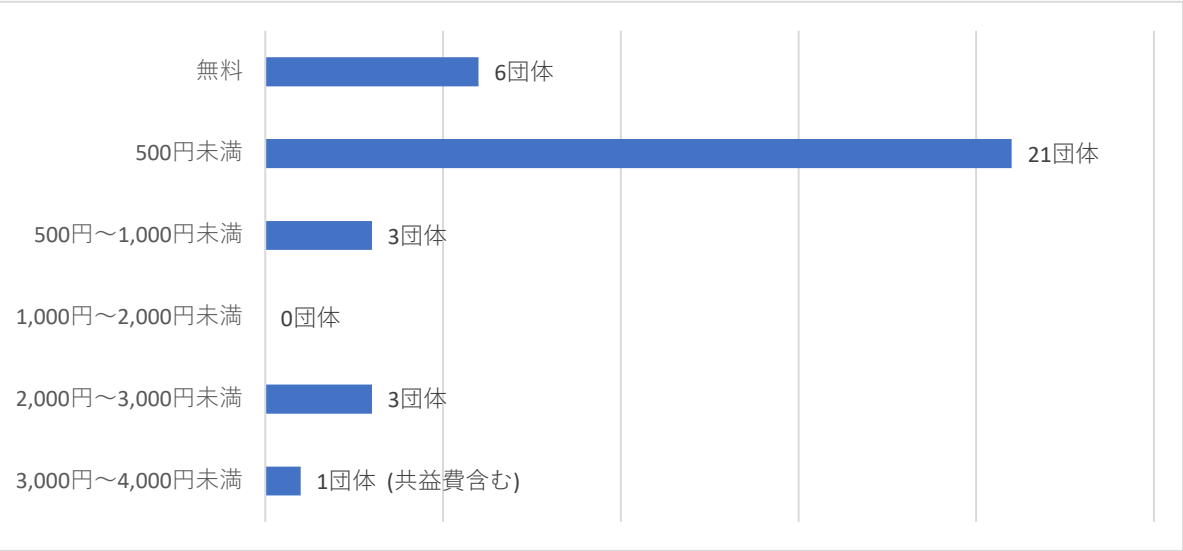
支給している自治会が20団体、支給していない自治会が14団体であった。
支給している団体のうち、一律の金額を支給している場合の平均値は、約1万円であった。
実費精算（領収書の提出に代えて支給）の場合、上限規定を設けている団体はなかった。
「その他」は、研修旅行費に充填する、出張先（市内または市外）によって一律に金額を定めているケースなどがあった。



<自治会費に関する質問>

問 3-1 自治会費の金額について ※月額で換算

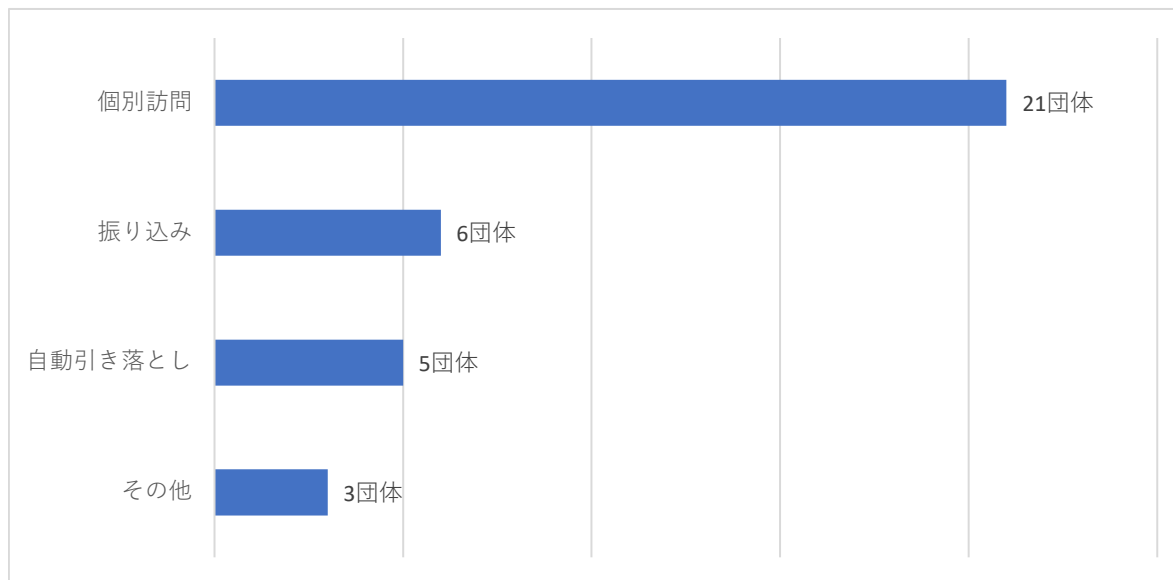
月額で「500円未満」（21団体）が最も多く、次いで、「無料」（6団体）が多かった。
なお、無料の場合、資源ごみの自主回収による補助金（資源ごみ集団回収補助金）にて運営費を捻出している団体が多数であった。



問3-2 自治会費の徴収方法 ※複数回答あり

「個別訪問」(21団体)が最も多く、次いで、「振り込み」(6団体)、「自動引き落とし」(5団体)が同程度の回答数であった。

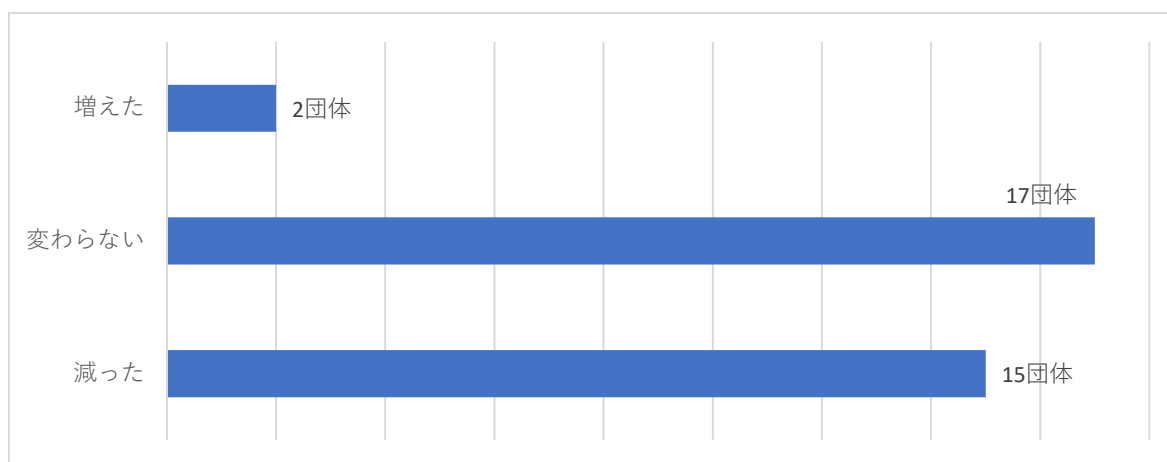
「その他」の回答では、①自治会事務所への持参、②各班により異なる・各班に委ねている、などがあった。



＜自治会会員に関する質問＞

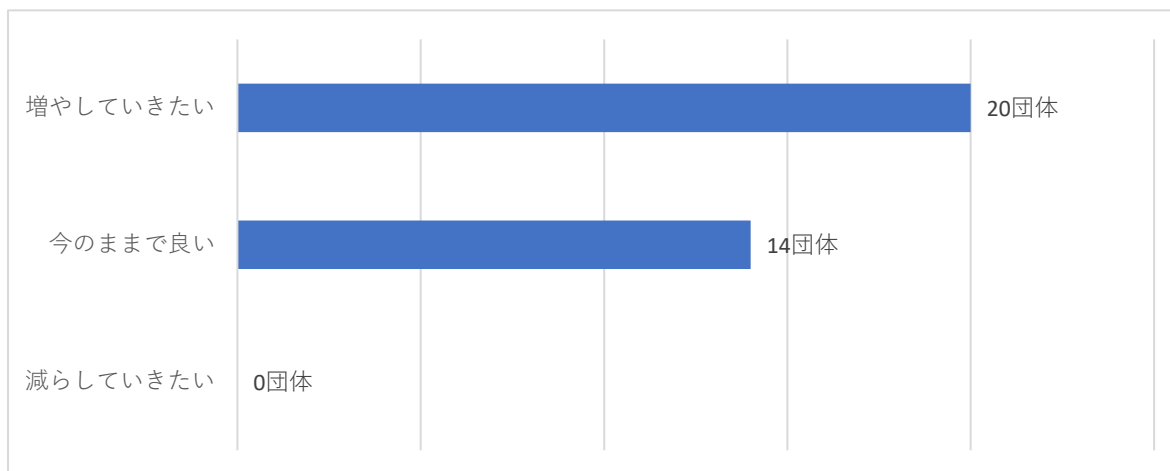
問4-1 近年の会員数

「変わらない」(17団体)が最も多いが、次いで、「減った」(15団体)も同程度の回答数があった。「増えた」と回答があったのは2団体であった。



問4-2 会員数に対する意向

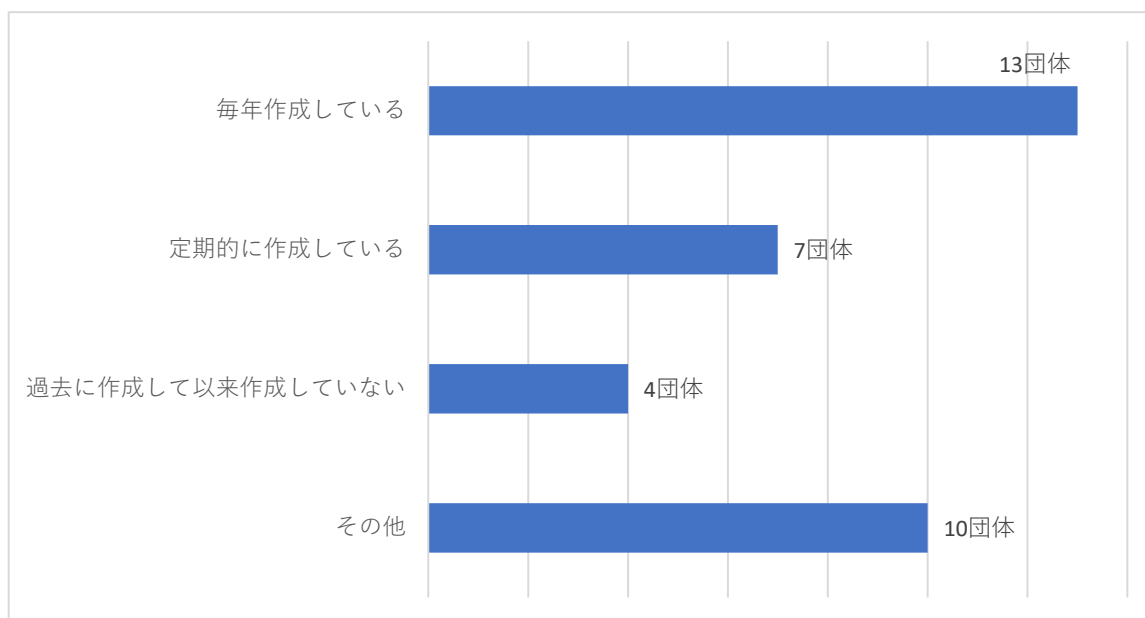
「増やしていきたい」(20団体)と「今のままで良い」(14団体)に回答が分かれ、「減らしていきたい」との回答はなかった。



問4-3 会員名簿の作成

「毎年作成している」(13団体)が最も多く、次いで、「その他」(10団体)の回答が多かった。

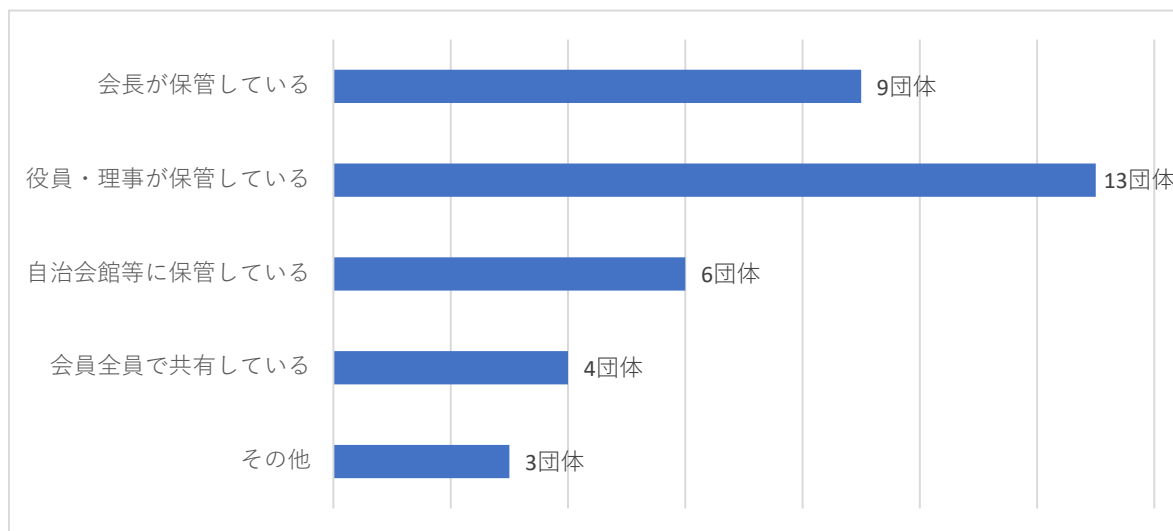
「その他」の内容としては、①作成していない、あるいはマンション管理組合の名簿のみで、自治会独自で作成・保管はしていない(6団体)、②自治会内の班毎に作成・管理しているが、自治会全体のものはない(3団体)、③転出入のあったときに改定する(1団体)、があった。



問4-4 会員名簿の保管方法 ※複数回答あり

「役員・理事が保管している」(13団体)が最も多く、次いで、「会長が保管している」(9団体)が多かった。

「その他」の回答としては、①各班ごとに保管している、②マンション管理会社が保管している、などであった。

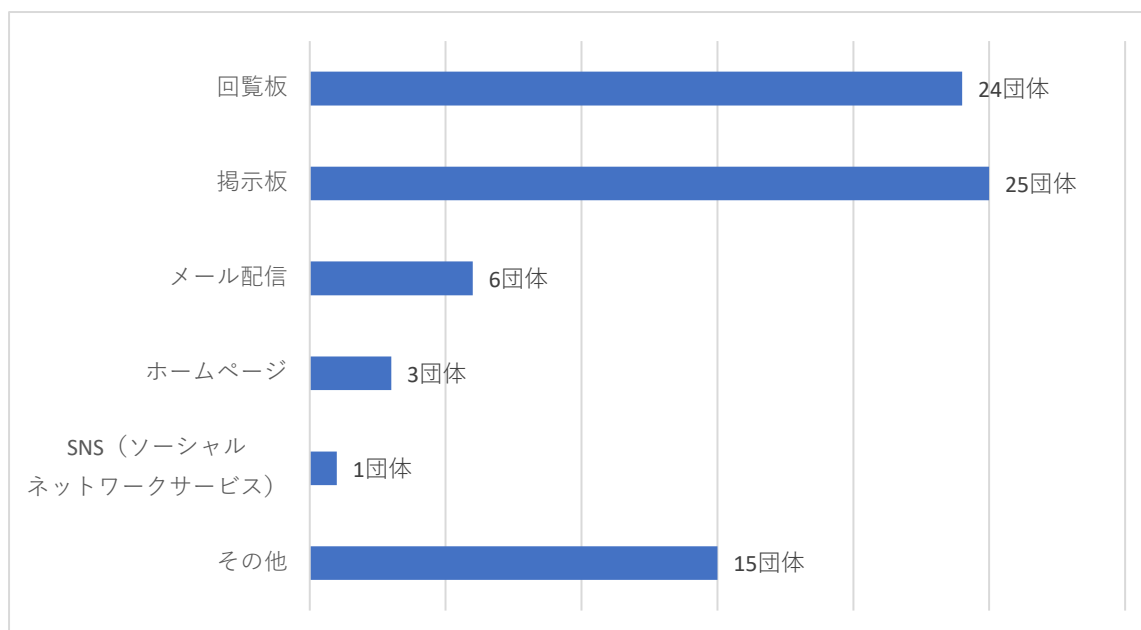


問4-5 会員への情報伝達の方法 ※複数回答あり

「掲示板」(25団体)、「回覧板」(24団体)によるものが多数であった。

メール配信(6団体)やホームページ(3団体)など電子媒体での運用は少数に留まっていた。

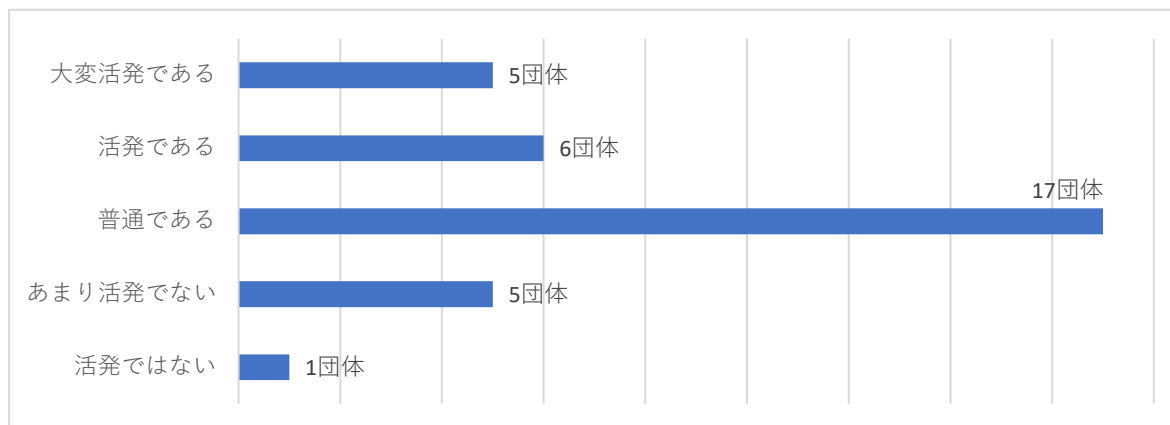
「その他」の回答としては、①自治会広報誌等の全戸配布(12団体)、②集会(1団体)、③階・班ごとの伝言(1団体)、④インターホン画面への表示(1団体)、があった。



＜自治会活動に関する質問＞

問 5-1 自治会の活動状況

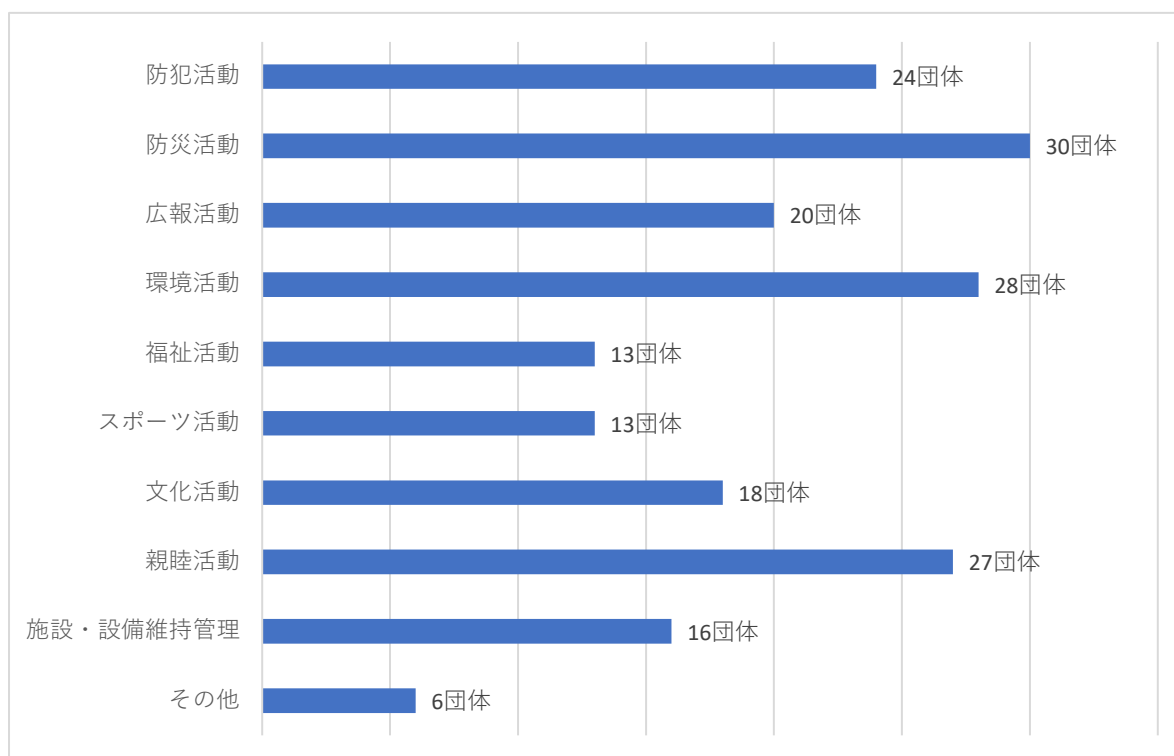
「普通である」(17団体)が最も多かった。「活発である」「大変活発である」が合わせて11団体あるのに対し、「あまり活発でない」「活発ではない」は合わせて6団体であった。



問 5-2 自治会の活動内容 ※複数回答あり

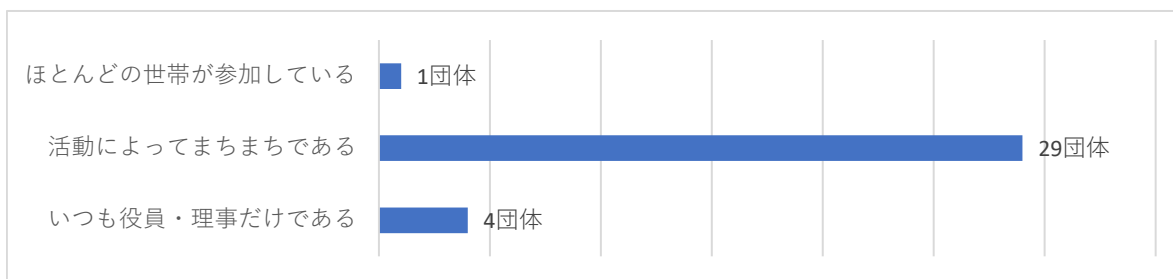
「防災活動」(30団体)が最も多く、環境活動(28団体)、親睦活動(27団体)、防犯活動(24団体)がそれに続き多数回答があった。

「その他」の回答としては、①資源ごみ(古紙等)の集団回収、②灯油の割引購入斡旋・上階への運搬補助、③年賀状の印刷補助、などがあった。



問5-3 会員の参加状況

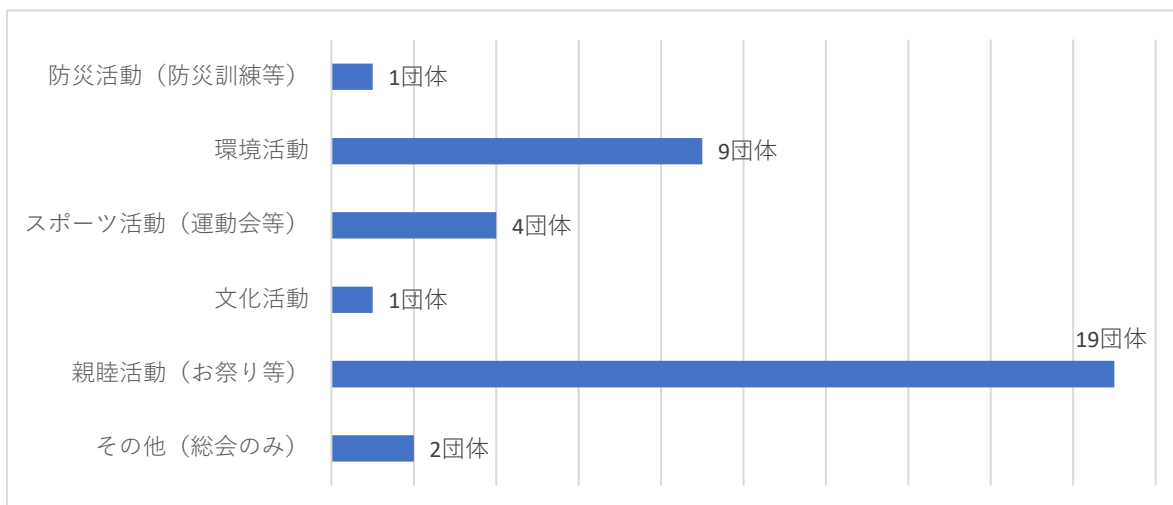
「活動によってまちまちである」(29団体)が最も多かった。「いつも役員・理事だけである」自治会が4団体ある一方で、「ほとんどの世帯が参加している」自治会も1団体あった。



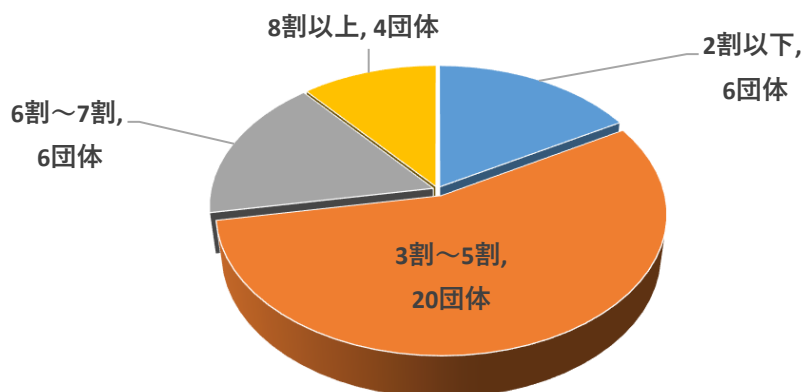
問5-4 会員の参加率が高い行事・イベントについて ※複数回答あり

「親睦活動(お祭り等)」(19団体)が最も多く、次いで、環境活動(9団体)が多かった。

参加率については、「3割～5割」(20団体)が最も多かったが、「8割以上」となる自治会も4団体あった。



上記回答の行事・イベントの参加率



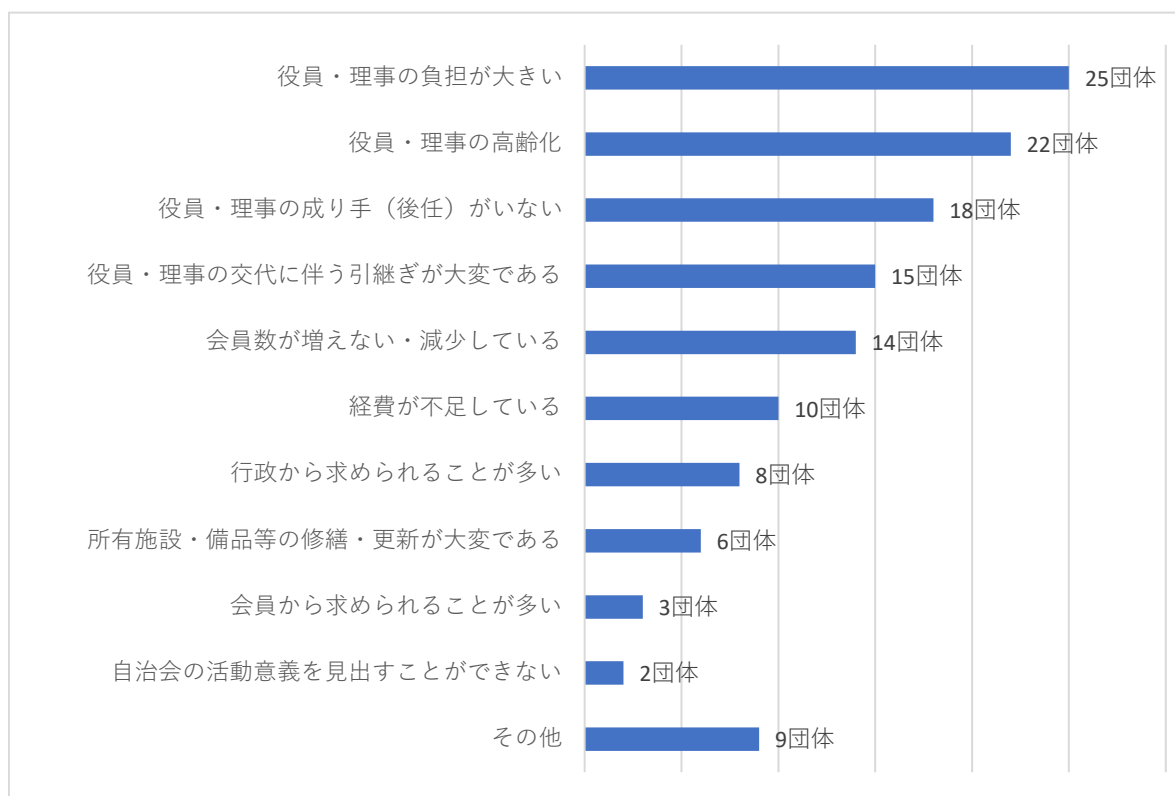
※最も参加率の高いものを抜粋

＜自治会運営に関する質問＞

問 6-1、6-2

自治会運営の課題

※複数回答あり



○上記課題の内容（自由記載）

〔役員・理事の負担や成り手の不足に関する課題等〕

- ・役員が輪番制で士気が低い。いかにして高めていくかが課題である。
- ・会費の支払いに消極的な世帯もあるため、徴収に苦慮している。
- ・高齢化の解消のため、一定年齢以上の人は役員を降りるような形で規約の変更も検討している。
- ・成り手が少ないため、近隣の自治会への吸収合併も視野に入れている。
- ・会長職への仕事の偏りを減らし、役員で分担できるよう調整している。
- ・「自治会サポーター制度」として、役員とは別にイベント時などに手伝いを呼びかけている。
- ・自治会役員ではなく老人会に加入し活躍している人が多いため、老人会を自治会活動に取り込み、一緒に様々な活動を行っている。
- ・役員の負担を増やさないようにしつつ、自治会活動を活性化させるため、自治会内で補助事業を予算化し、役員以外の方が自主的に企画・実行できる仕組みとしている。

〔会員数に関する課題等〕

- ・会員全体として高齢化傾向が強く、高齢を理由とした脱退も見られる。
- ・賃貸住宅では引越等で出入りが多く、加入促進が困難。
- ・独自に加入パンフレットを作成して地域に配布するなど会員数の維持・増加に努めている。
- ・減少を食い止めるため、広報・PRの拡大と合わせ、会員の声に耳を傾け、求められていることを把握する必要がある。

【経費の不足に関する課題等】

- ・会員数の減少に伴い収入が落ち込んでおり、今まで実施してきたこと(旅行行事、敬老行事等)ができなくなってきた。そうしたことが、自治会加入の魅力低下にも繋がり悪循環となっている。
- ・資源ごみ集団回収補助金を自治会運営の収入源としているが、新聞の電子化等の影響により、補助金が微減傾向にある。その他の助成金を検討・利用するにあたり、行政による支援も期待したい。
- ・会費の値上げをしたいが、会員減少の可能性を否定できず実施しかねる。

【行政からの求めに関する課題等】

- ・行政からの情報について、掲示板、回覧により周知しているが、自治会ホームページ、メール、SNS等を活用する為の支援をしてほしい。
- ・チラシ等の配布については、各戸に直接郵送してほしい。
- ・会議等が多く負担である。会議の開催時間を考慮してほしい。会議等への参加を考慮すると、役員の成り手がますます少なくなる。
- ・すべて会長職で対応するのではなく、役員で分担して対応するよう調整しているが、報酬のある委員もあり、割り当てが難しい。

【会員からの求めに関する課題等】

- ・他力本願的でありながら、自分勝手な申し入れが多く、対応に苦慮している。
- ・会員のライフスタイル・地域活動への考えは様々であることから、自治会活動活性化という前提には立たず、負担が過重にならないようバランスを気にかけている。

【施設・備品等の維持管理に関する課題等】

- ・協議する時間も予算も不足しているため、踏み込んだ話し合いができていない。

【自治会の活動意義に関する課題等】

- ・地域コミュニティの必要性を感じない住民が増えてきており、加入のメリットをどう説明していくかが課題である。

【その他の課題等】

- ・区画整理(市街地整備)の進展に伴い、自治会区域の構成世帯数に偏りが生じており、自治会活動にも支障が出ている。
- ・そもそも各会員が自治会活動への関心が低く、課題すら顕在化していない。
- ・高齢者同士の交流の場はあるが、自治会として、高齢者と若い世代・子どもたちとの交流の場を積極的に設けることで、地域の活性化を図りたい。
- ・他の自治会の情報について、参考・共有できるようになるとありがたい。

問6-3 自治会活動の特色(自治会活動で力を入れていること)

《 矢野口自治会 》

○交流事業 矢野口大運動会

今年で51回目を迎える運動会で、各地区対抗の競技種目や子どもからお年寄りまで参加できる内容となっている。近年は子どもの減少に伴い得点競技はオブザーバー参加となる地区があるが、非常に盛り上がる内容になっている。

○防災訓練

第七小学校の校庭・体育館を借用し、矢野口独自に年一回の訓練を実施。矢野口自主防災組織が中心となり地区ごとに体験訓練を行い、防災意識を高めている。また、研修として都内の防災館に行ったり、普通救命救急訓練を行っている。

○専門部の活動

広報部・防犯交通部・会館消防部・環境部・体育対策部・書記部に分かれて定期的に活動しており、毎月定例理事会時に報告をいただいている。

《 東長沼自治会 》

○防犯活動

安全安心な街、犯罪ゼロを目指して毎月一度は、地域安全パトロール(平均40名参加)を実施。自治会役員、協力団体に参加してもらい、徒歩でのパトロールとゴミ拾い、青パトでの巡回を実施。また、役員会や自治会イベントには、市から提供されたベストと帽子を着用して参加。着用することで家から自治会館までの往復もパトロールを行っていることになる。

○防災活動

平成9年に東長沼自治会自主防災組織を結成。(阪神淡路大震災後)自分たちの街は自分たちで守るを合言葉に、自治会の下部組織として活動している。自治会の役員とは別に、7ブロックの隊長、女性部、正副本部長(自治会長、副会長が兼務)、事務局で構成して防災・減災の活動や訓練を定期的実施。月に一度の役員会を開催して、訓練の計画や災害時の対応に備え、対策などを協議している。自治会(自治会費の1/3)からの補助金を元に、防災倉庫の資機材・備品の拡充や訓練等を実施。その他、避難行動要支援者のリストを保管して、民生児童委員の方々と情報を共有、いざという時の助け合いの活動を行っている。

○環境美化活動

ゴミの少ない、きれいな街は犯罪が少ないと言われており、地域安全パトロールの際は、ゴミ拾いを実施している。稲城市公共施設アダプト制度を活用して、2つの公園に植栽活動を通し、環境美化、子ども見守り活動、公園の管理を行っている。亀山下公園の市民参加型花壇には、東長沼自治会と本郷ゆうし保育園、学童クラブ、近隣の介護施設ツクイなどの団体に参加してもらい「亀山下公園を見守る会」を結成。毎年6月と11月に植栽活動と花壇の管理、子ども見守り活動を行っている。

平成31年にオープンしたペアパークの花壇には、今年の4月に自治会やその関係団体、稲城市区画整理課、隣接するペアテラス(観光協会)にも参加してもらい、アダプト団体「稲城長沼ペアフレンズ」を結成。6月には公園内にできた防災設備を使った訓練と花壇づくりを実施。今後は一般の方にも呼び掛けて、6月と11月に植栽活動を実施していく予定。

《 都営稲城第二アパート自治会 》

○自治会運営の見直し

自治会運営の要となる部分（自主防災活動、防犯活動、高齢者の見守り等）
以外は、今後、外部への委託も検討していく。

《 百村自治会 》

○交流事業

地域内の会員相互の交流の為、運動会、桜祭りを始め、盆踊り、お祭り等に
積極的な協力を行い、地域の方々の交流を図り、明るい住みやすい街づくり
を行っている。

○生活環境事業

市主催の美化運動の推進及び自治会主催のまちきれ運動を行い、きれいな住
みよい街づくりを行っている。

○防犯事業

防犯・駅伝パトロール等を行い地域の安心・安全な住みよい街づくりを行っ
ている。

《 坂浜自治会 》

○盆踊り

○自主防災訓練

地域の小・中学校の生徒、保護者を交えた防災訓練の実施。

《 平尾自治会 》

○盆踊り大会

ヤグラを建て地域の方が一堂に集う活動をしている。高齢化が進み、継続して行くのが大変である。

○夏休み企画

バス見学会、バーベキュー等、夏休みにお父さんに代わって連れて行ってあげられるように始めた。

○日々の活動

楽しくやる事を心がけている。

《 平尾住宅自治会 》

○灯油幹旋

毎年10月後半から翌年3月末まで、市場価格より安価に灯油を配達してもらうよう業者と調整し、各戸の戸口まで配達していただいている。また、希望者には灯油ポリタンクの階段持ち上げを行っている。

○資源回収のサポート

自治会では月2回資源回収を実施しているが、重いものを回収場所まで持っていくのが大変な方（約20世帯）には、そのサポートをしている。

○各種行事

桜祭り・盆踊り大会・防災訓練・防災館見学・いこいの広場(年賀状印刷、囲碁将棋大会、写真&絵画展示、フリーマーケット)

《 平尾宅地分譲住宅自治会 》

○転倒骨折予防体操

○宅分カフェテラス

○自主防災活動

《 押立自治会 》

○運動会、盆踊り、祭りなどの催し

地域大運動会、盆踊り大会、神社祭礼など子どもからお年寄りまで顔を合わせ目的をひとつに事業を行う。

《 ファインヒル向陽台自治会 》

○環境整備

清掃や美化活動を実施。

《 多摩ニュータウン向陽台六丁目団地自治会 》

○安全に安心して暮らせるように

まずは年間のイベント、草刈り、他、やるべきことを回す、決める。

《 向陽台公団賃貸住宅自治会 》

○向陽台夏祭り

毎年8月末の最終土曜日に向陽台地区の15の自治会、管理組合主催で実施。
店を出して地区の子どもたちの夏休みの思い出づくりをしている。

○向陽台ふれあい防災訓練

毎年秋に稲城第5中学校全校生徒と向陽台地区連合会が合同で、地域住民と中学生の防災訓練を実施。城山小学校と向陽台小学校の高学年はオブザーバー参加して万一の災害時の対応知識の向上を目指す。

○もちつき大会

毎年正月明けに公団住民を対象にもちつき大会を実施。
会員はもちろん、未会員の人も含めて住民交流の場として実施。

《 長峰杜の一番街自治会 》

○資源ゴミの回収

今までアルミ缶の区別をしていなかったが2018年7月より区別をし、補助金の対象としている。

○子ども、高齢者等の催し

《 ビューコート若葉台自治会 》

○定期的な交流会

飲食を共にして、顔と名前は一致する様にしている。

《 若葉台ワルツの杜団地自治会 》

○住民間のコミュニティ形成

災害や緊急事態の時、助けになるのはご近所同士であることから、住民間のコミュニティ形成を第一に考えている。マンションの事情から、建物や敷地の管理、財産保全等は「管理組合」、防災は「自主防災組織」（管理組合傘下）という別組織があることから、自治会は主に住民間のコミュニティ形成に特化している。以前は子ども中心のイベントが多かったが、最近住民の高齢化が進んだこともあり、大人向けのイベント（ビアパーティー等）を開催して親睦を深めている。

○理事会、自主防災組織、老人会との連携

団地内を一つにまとめるため、個々独立している理事会、自主防災組織、老人会との連携を重視している。お互いに役員を兼任して情報共有を行い、お互いの役割分担を明確にして、諸問題を解決する体制を取っている。

○若葉台地区の他団体や事業所との連携

若葉台地区の自治会と連携し、「若葉台地区自治会連絡会」（8自治会、1町会）を立ち上げている。この連絡会は、若葉台地区最大のイベントである「若葉台地区夏祭り」や、青少年と六中による「六中ふれあいの日」、最近、体育振興会が中心となり始めた「若葉台地区大運動会」等に全面参加・協力している。また、地域の事業者との連携による「若葉台イルミネーション」や、その他、ALSOKやテレビ朝日、コーチャンフォーとの連携を進めている。

《 ファインストーリーア団地自治会 》

○住民交流イベントの開催

住民間のコミュニティ形成の推進

①以下のイベントを年間通して開催。

「納涼会」(7月)、「若葉台地区夏祭りへの出店」(8月)、「若葉台地区大運動会への参加」(10月)、「六中ふれあいの日への参加」(10月または11月)、「ファインストーリー秋祭り」(11月)、「クリスマス会」(12月)、「お餅つき会」(1月)の実施。

②「棟別懇親会」の開催を支援。

○環境美化活動の推進

団地敷地外(周辺)の美化・清掃活動の実施

①毎月第三土曜日(原則)に環境美化運動(美化・清掃活動)の実施

②アダプト制度による花壇整備

③環境美化市民運動への参加

○防犯・防災活動の推進

災害に備えて、マニュアル作成・防災対応体制整備等の検討

①防犯パトロールの実施

②消防・防災訓練への協力

③防災マニュアルの作成検討

④防犯・防災意識の啓発

《 若葉台自治会 》

○防災活動

自主防災組織は自治会の下部組織としており、自治会としても重要な活動として、自主的な防災訓練等を行っている。

《 長峰西地区自治会 》

○広報

「自治会連絡」を月1～2回程度全戸配布し、地区内の諸問題やそれぞれの取り組み、団地全体の行事のお知らせや参加呼びかけ等を行っている。また、災害への備えの呼びかけ等も行っている。

《 若葉台ワーズワースの丘自治会 》

○若葉台夏祭りへの出店（地域イベントへの参加）

○不正投棄ゴミ問題への対応

啓発イベント開催やゴミ捨て場等への掲示による住民の啓発活動。

○餅つき大会（マンション内イベント）

お祭りイベントを通じてマンション住民の会話を促し、コミュニティ意識を醸成する。

《 若葉台蒼の区町会 》

○自治会館建設準備

業者との打ち合わせ、役員間の調整・メールのやり取り。

《 若葉台ザ・レジデントパークス自治会 》

○夏祭り

若葉台地区夏祭り。自治会がメインとなって活動する大きなイベントとなり、企画、準備、運営に対して毎年力を入れている。

《 向陽台二丁目住宅自治会 》

○バス研修旅行

年一度会員を対象に日帰りのバスツアーを行っている。参加希望者も多く、今年は53名参加してつくばやJAXAへ行ってきた。来年も実施を予定している。

○音楽会

年一度自治会員による音楽会を自治会館(向陽台三丁目自治会から借用)を使って行っている。毎年、出演者も増え、内容も充実してきている。実費負担で自治会以外の方も参加していただいている。

○もちつき大会

毎年正月にもぐらさん公園で行ってるが、参加者も多く、住民同士の交流の役に立っている。

《 長峰ルナオーブ自治会 》

○長峰夏祭り

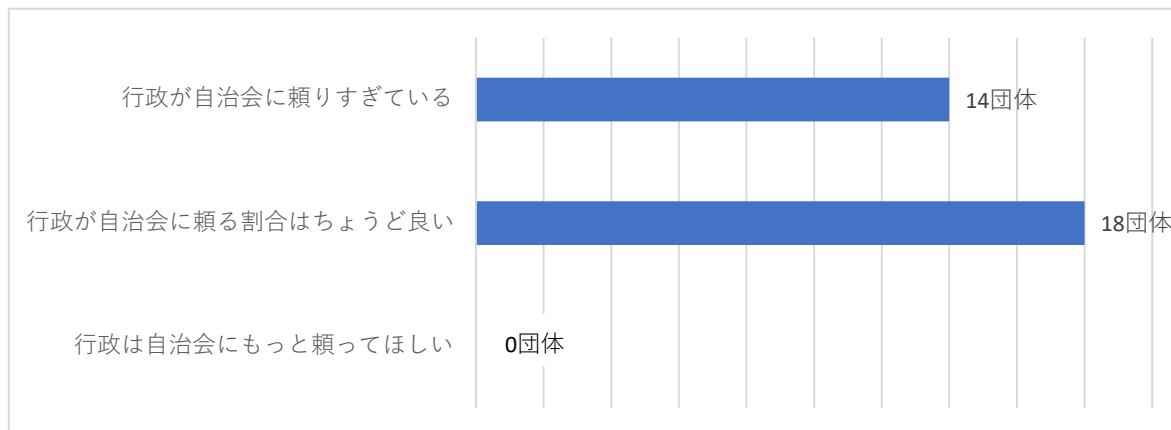
長峰夏祭り実行委員会が主催の行事。当自治会及び子ども会が共同で出店している。

○三自治会合同の自主防災

都の助成金を活用して資機材を購入し、訓練することで各会員の防災意識を高めている。

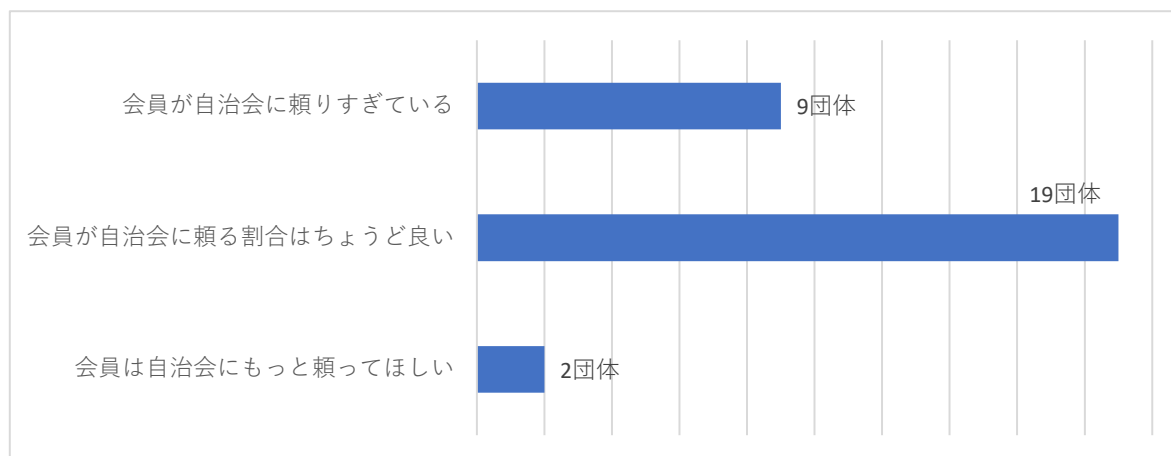
問6-4 行政との関係について

行政との関係は「行政が自治会に頼る割合はちょうど良い」(18団体)が最も多く、次いで「行政が自治会に頼りすぎている」(14団体)が多かった。また、「行政は自治会にもっと頼ってほしい」は0団体であった。



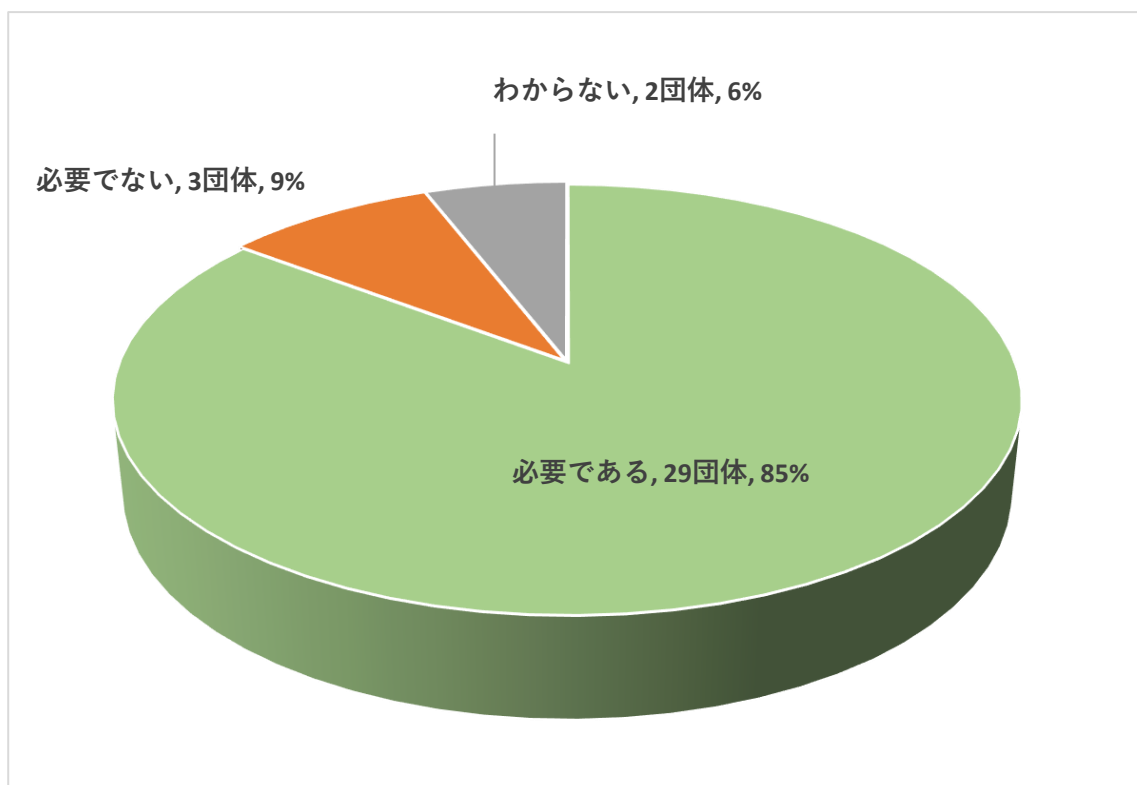
問6-5 自治会会員との関係について

自治会員との関係は「会員が自治会に頼る割合はちょうど良い」(19団体)が最も多く、次いで「会員が自治会に頼りすぎている」(9団体)が多かった。また、「会員は自治会にもっと頼ってほしい」は2団体であった。



問6-6 自治会活動の必要性

自治会活動の必要性は「必要である」(29団体)が最も多く、次いで「必要でない」(3団体)が多かった。また、「わからない」が2団体あった。



【必要と考える理由】 ※複数回答あり

- ・災害時やいざという時の共助の体制の構築のため。(12団体)
- ・地域での親睦、コミュニケーションを図るため。地域の情報共有のため。(12団体)
- ・安全で安心な住みやすい街とするため。(4団体)
- ・行政との協働の窓口となるため。(2団体)
- ・地域での課題を解決するには個々人ではなく、組織が必要。(2団体)
- ・高齢者の見守りのため。(2団体)

【必要でない・わからないと考える理由】

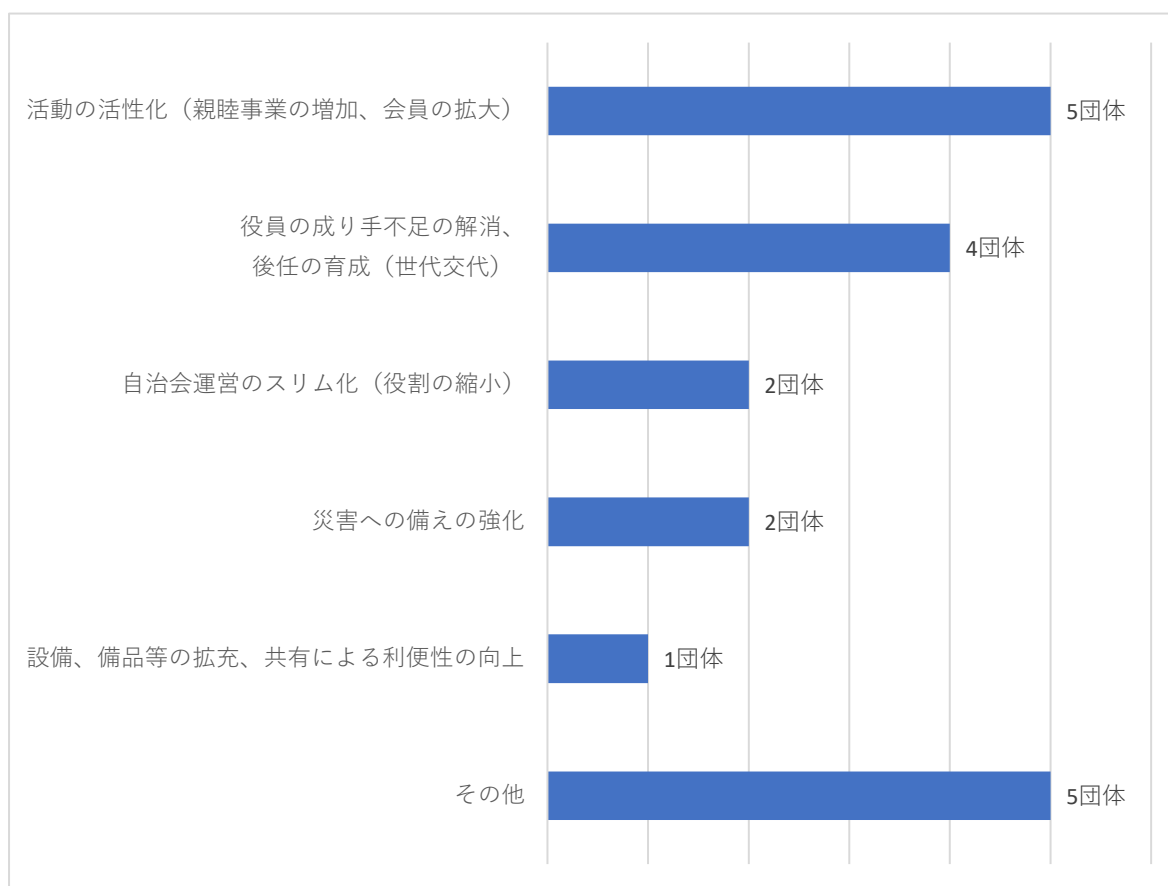
- ・地域での交流やコミュニティ形成を望む声が少なくなっているため。(1団体)
- ・行政の在り方、関与の仕方しだい、自治会の必要性は変わってくる。(1団体)
- ・必要性は感じつつも、活動に携わるとプライベートな時間が十分に確保できなくなってしまうため。(1団体)

問6-7 今後の自治会活動のお考え（今後やってみたいこと等） ※複数回答あり

「活動の活性化（親睦事業の増加、会員の拡大）」（5団体）が最も多く、次いで、「役員の成り手不足の解消、後任の育成（世代交代）」（4団体）が多かった。

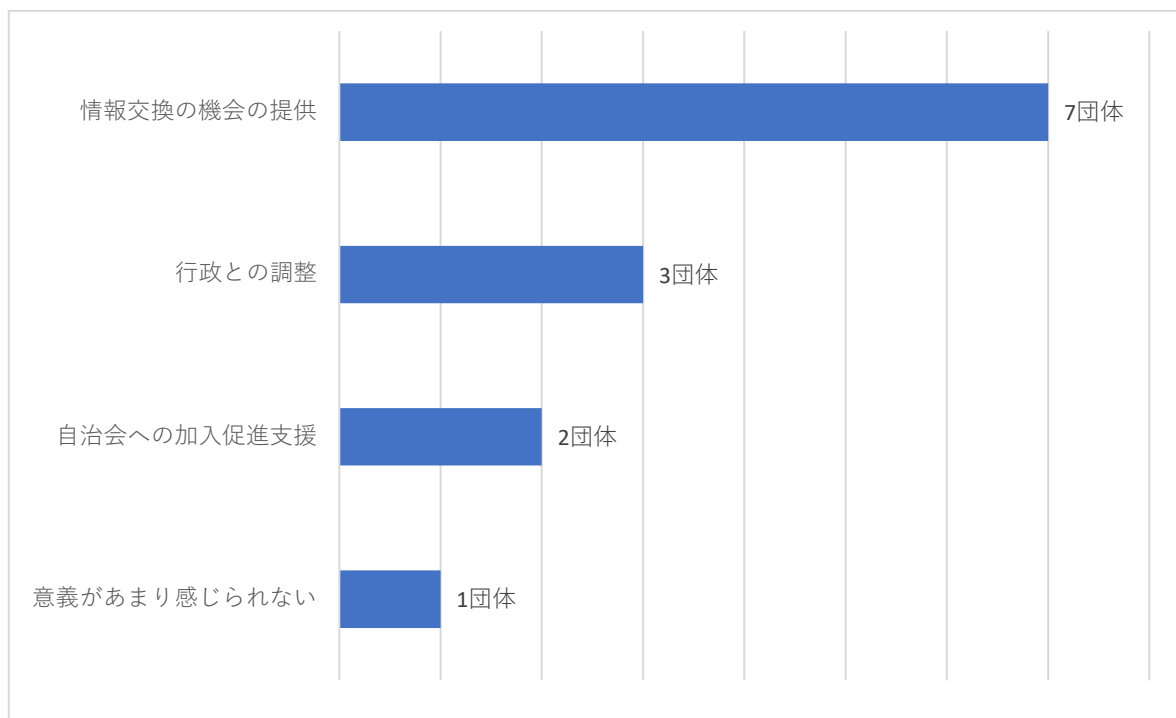
「自治会運営のスリム化（役割の縮小）」は、役員の成り手不足の解消策としての意見が主であった。併せて役員の待遇向上（手当の拡充）により、成り手不足の解消を図る意見もあった。

「その他」の回答では、①自治会区域全体ではなく、マンションの棟ごとなど、より小さな区域単位での活動の立ち上げ（2団体）、②近隣の自治会や学校、企業等も含めた地域連携の強化（2団体）、③日常的な世代間交流の場の提供（子育て、高齢者見守り等における相互協力の仕組みづくり）（1団体）があった。



問6-8 自治会連合会への要望事項・意見 ※複数回答あり

自治会連合会への要望事項・意見は、「情報交換の機会の提供」(7団体)が最も多く、次いで「行政との調整」(3団体)、「自治会への加入促進支援」(2団体)であった。また、「意義があまり感じられない」が1団体あった。



○「情報交換の機会の提供」に関する要望事項・意見

- ・各自治会の総会資料など、事業内容及び活動状況等の情報提供をお願いしたい。
- ・市内に限らず、先進自治会の事例紹介等をしてほしい。
- ・市内の近隣自治会同士の交流の場を提供してほしい。
- ・連合会活動の報告を拡充してほしい。

○「行政との調整」に関する要望事項・意見

- ・各自治会で共有する課題について行政と調整してほしい。
- ・各種会議開催時間を改善してほしい(平日開催の会議を減らしてほしい)。

○「自治会への加入促進支援」に関する要望事項・意見

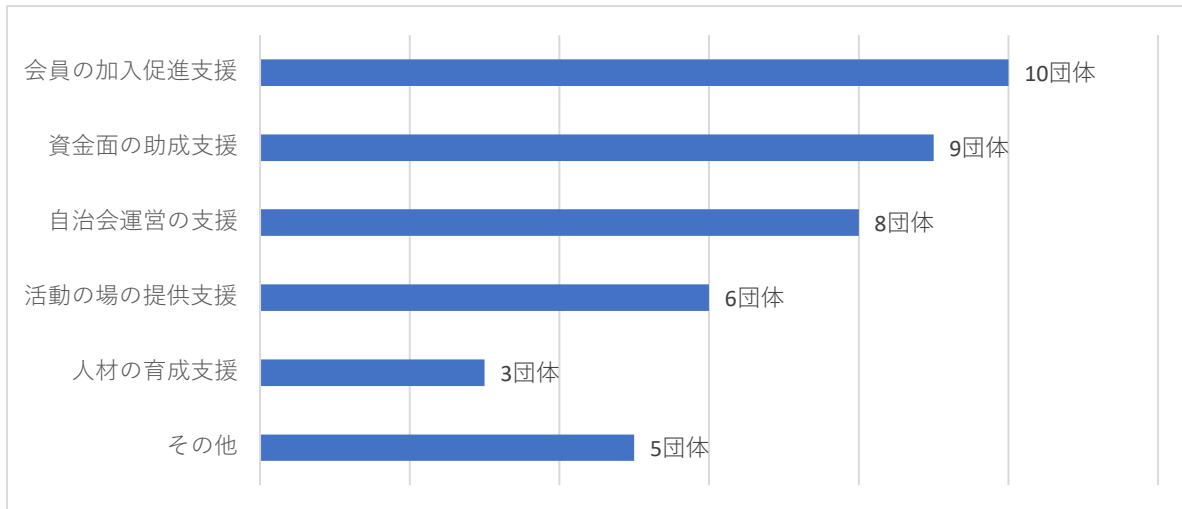
- ・加入促進のための広報を多く出してほしい。
- ・加入促進のための方策を検討してほしい。

○「意義があまり感じられない」に関する要望事項・意見

- ・連合会からの選出としての委員を割り当てられるだけである。

問6-9 行政への要望事項・意見 ※複数回答あり

行政への要望事項・意見は、「会員の加入促進支援」(10団体)が最も多かった。次いで「資金面の助成支援」(9団体)、「自治会運営の支援」(8団体)という回答であった。



○「会員の加入促進支援」に関する要望事項・意見

- ・市広報紙や市ホームページ等を通じて加入促進の案内、自治会の紹介をしてほしい。
- ・転入者に対し、自治会の加入案内を積極的にしてほしい。
- ・自治会へ加入する方へ、特典の付与をしてはどうか。

○「資金面の助成支援」に関する要望事項・意見

- ・各自治会主催事業に対し、物品または補助金等の交付をしてほしい。
- ・自治会委託事務費交付金(1世帯：130円)を増額してほしい。
- ・資源ごみ集団回収補助金を継続・拡充してほしい。
- ・自然災害の増加に対応する為、防災関係の補助金を交付してほしい。
- ・各種助成金制度の案内とその取得に向けた支援をお願いしたい。

○「自治会運営の支援」に関する要望事項・意見

- ・各自治会の総会資料の閲覧等、情報共有化を図ってもらいたい。
- ・自治会内の情報伝達手段の電子化(ホームページやメール)への支援をしてほしい。
- ・支援を受けたことがない。

○「活動の場の提供支援」に関する要望事項・意見

- ・自治会活動は、公共施設を優先的に利用できる様にしてほしい。
- ・コミュニティセンター、自治会館建設への更なる支援をお願いしたい。

○「人材の育成支援」に関する要望事項・意見

- ・自治会会長・役員を対象とした研修を実施してほしい。
- ・消防団等の地域組織の経験者に対する、自治会役員就任への働きかけをしてほしい。

○「その他」に関する要望事項・意見

- ・行政のやること、自治会のやることの再整理をする時期だと思う。自治会への依頼案件を極力少なくしてもらいたい。
- ・非常時(災害時)の連絡体制の更なる整備をしてもらいたい。
- ・各戸配布資料準備時、ソート機能のあるコピー機がiプラザ等で使えると有難い。